

## ■令和4年度第二回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 A 分科会議事概要

日時：2022/10/19 9:30～10:45

場所：我孫子市役所分館小会議室(オンライン開催)

出席委員：熊田副委員長、大炊委員、山内委員、門脇委員、荒井委員

事務局(企画政策課)：高見澤次長、吉岡課長補佐、河合総括主査、鈴木主任

会議の公開/非公開：公開

傍聴人：0人

### 【議題】令和3年度施策評価について

#### ○基本目標2-(1)我孫子の魅力を活かした定住の促進

##### 〈発言要旨〉

委員：「17. メディアで取り上げられた回数」について、移住定住のターゲット層は、我孫子の場合は東京のほか地方の方も対象となると考えられるが、千葉県内のメディアに取り上げてもらってもターゲット層が視聴できる機会がないため、東京のメディアに取り上げてもらう方が効果が期待できる。メディア業界は資金不足の傾向が続いており、地方よりも近場である首都圏のロケが増えていることから、我孫子を取り上げてもらうのも比較的容易な状況なので、うまくアプローチしてほしい。また、まちの知名度の上昇や賑わいが直接的に定住に結びつくわけではないので、本来であれば、ターゲット層に定住を促すための情報の発信の仕方について綿密に設計していくべきだが、なかなか我孫子がそこまで実践するのは今の状況では難しいのかなという印象を受ける。ただ、費用対効果を考慮した上で、ターゲット層とリンクしたメディアの選択は重要である。

委員：SNSを活用した情報発信、特にハッシュタグのキーワードを工夫するのも効果的と思われる。

委員：農産物直売所の利用客の状況としては、市内だけでなく、近隣市の方も利用いただいている。また、ドラマの撮影で施設が取り上げられたことで、手賀沼や自然など、我孫子の良さを知ってもらうきっかけとなり、それが定住につながればありがたいと思う。

委員：若い方を定住のターゲットにしていく上で、メディアに取り上げてもらうのは大切だが、取り上げてもらう魅力を備えることも必要。自然を取り上げてもらって、併せてカメラに写っている公園の遊具が故障しているような状況では魅力があるとは言い難い。メディアにアプローチするためにはそれなりの作りこみが必要となる。また、メディアで取り上げられた回数は増えているが、「15. 若い世

代の住宅取得補助金申請受付件数」は目標に届いていないのが疑問であったが、申請者の内訳を見ると、市外からの転入者は平成29年度や30年度と比べても増えており、歩留まりがいいとも言える。こういった状況を考えると、概ね良好に推移していると感じる。

委員：「15. 若い世代の住宅取得補助金申請受付件数」について、申請数は市内の住宅の供給数に比例する面もあり、各年度の開発動向によって左右されるため、目標値に届いていないから単純に未達成というものでもないのではと感じる。我孫子の魅力に関して言えば、最近では地価も上がっており、理由としては都内へのアクセスの良さ、電車も始発で東京まで出ていける点などが考えられ、これらを手賀沼の自然環境の良さなどと併せてアピールできればさらに定住の促進につながるのではと思う。また、「16. 住宅リフォーム補助金活用件数」が目標達成している状況を鑑みると、一度住んでもらえれば長く住んでもらえる土地柄なのだろうと捉えている。

委員：住宅取得補助金はいくまでも定住を促す上での補助的な役割を担うもので、若者をターゲットにしていくためには、仕事と子育ての両立といった観点で、基本目標3「あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり」の施策とも関連してくるのだろうと感じる。その場合、住宅取得補助金を担当する建築住宅課だけでできることは限られてくると思うので、庁内横断的に有効な施策を検討してもらえるよう期待したい。

#### ＜事業15～17の評価＞

「1. 良好」とした。

#### ○基本目標2-(2)大学・企業との連携強化

##### ＜発言要旨＞

委員：「19. 新たに立ち上げる総合型地域スポーツクラブ」について、令和4年度に総合型地域スポーツクラブに移行する団体があるようだが、具体的にどんな団体か。

事務局：現在我孫子第三小学校をメインに活動されている団体が移行する予定となっている。また、「20. 総合型地域スポーツクラブの会員数」にも関連して、現在の総合型地域スポーツクラブの現状について補足させていただくが、母体となる団体が一つの種目だけを行っていたり、高齢者向けのトレーニングだけを行っていたりと、なかなか多世代・多種目という条件を満たせる団体が少なく、さらに

はコロナもあったことで活動が縮小していたりと、思うようには進んでいない状況である。

委員：中里に新しくフットサル場ができたりと、スポーツ自体は衰退している状況ではないと思われる。ただ、総合型のスポーツクラブとなると、対象が広すぎて逆にぼやけてしまう印象があり、市としては特定のスポーツだけを振興するわけにはいかないのが難しいところもあるのだと思うが、市民のニーズとは合致していないように感じるため、更なる工夫が必要。

#### ＜事業18～20の評価＞

「3.良好とはいえない」とした。

#### ○基本目標2-(3)地域資源を活かした観光振興による交流人口の増加

##### ＜発言要旨＞

委員：「21. シティセールス動画へのアクセス数」について、YouTube チャンネルへのリンクを我孫子住み替えナビに掲載したとあるが、冊子の設置場所が市内の施設となっている。シティセールスは、シビックプライドや我孫子への愛着の醸成といった意味で考えれば市内への発信も必要だが、「住み替えナビ」という性質上、本来は外部に向けて発信するべきものではないか。ただ、これまでのシティセールスの取組を見てきた総括的な印象としては、そもそも我孫子市はシティセールスへの予算が少なすぎるのではないかと感じる。活用するメディアも少ない予算の中で可能な範囲で選択している印象で、担当課の苦勞が垣間見える。

委員：事業の性質上、民間に委託するのも一つの方法のように感じる。

委員：民間に委託している自治体も多い。我孫子市のように、人材を内部に引き込んで自前で行う自治体もあれば、その予算を外部のまちづくり会社やDMOの立ち上げ、観光協会の強化などに回している自治体もある。どちらがいいかは自治体ごとの考えがあると思うが、予算額自体が我孫子市は少ないため、これ以上の成果を担当課に求めるのは難しいと感じる。

委員：この施策の担当課は秘書広報課と手賀沼課となっているが、それだけではそれぞれの所管の枠に収まってしまって広がり期待できない。企画政策課のような企画力のある課がどんどん企画を出していくというのにも必要ではないか。

委員：秘書広報課というのは、秘書担当と広報担当でどのようにリンクしているものなのか。

事務局：一つの課の中で秘書・広聴担当と広報担当とで明確に業務が分かれているので、事業の中で特別にリンクして動いているという状況ではない。また、先ほどからシティプロモーション施策に対する委員の皆様の議論をお聞きしている中で一点補足させていただくが、千葉テレビとの契約については、秘書広報課と様々な議論を重ねた上で、企画政策課の方から中断を提案した経緯がある。その代わりにシティリビングや住み替えあびこナビなどを都内のオフィスを中心に配置するなど、施策の展開を切り替えた上で進め始めているところである。

委員：「22. 手賀沼沿いの交流空間となる施設の入場者数」について、道の駅しょうなんのオープン後も我孫子側の利用者が減少していない状況がまさにマーケティングの重要性を示す象徴的な事例と言える。人が出かける際には必ず目的があり、それぞれの施設のお客さんはマーケットが異なることから、それに対応したものを用意できれば客の取り合いにはならない。このマーケティングの重要性を理解できれば、様々なメディア戦略においても活かせるものとする。なお、我孫子市ではシティプロモーションは秘書広報課の中の魅力発信室が専任となっているが、他の自治体では企画部門が担っているケースも多い。本来は市長直轄のポジションで、街の動き全体を把握できている課が街の要素をピックアップして魅力発信していく体制が望ましいので、そういった面も課題ではないかと感じる。

委員：マーケティング・ターゲティングといった分野は、やはり民間の方が優れているのは明らかであり、こういった提言は市民として行政に積極的に伝えていくべきと感じる。

委員：「21. シティセールス動画へのアクセス数」が伸びた翌年度に「22. 手賀沼沿いの交流空間となる施設の入場者数」が増えるなど、両施策には多少の相関性があるという見方もできるのかなと思う。限られた予算の中で、誰に何を発信するのかということを見定めて効率的に展開していくことが必要なのであろうと感じた。

委員：シティプロモーションを推進する組織体制としては、それぞれ所管課が行っている取組に横串を刺すような部署が設置されると、もっとスピード感を持って推進できるのではないかと感じる。現在はこの施策分野の担当課は施策評価表上だと

秘書広報課と手賀沼課しか表記されていないが、関連する課も表記することで各課の意識も変わるのではと感じた。

委員：今日の特にこのシティプロモーションの分野の話については、市長まで届けるべきくらいの内容ではないかと思う。ぜひ今後機会があれば積極的にお伝えする場を作っていただきたいと思う。

**<事業21～22の評価>**

「2. 概ね良好」とした。

**【その他事務局連絡事項】**

・施策の評価は本日の第2回までの会議で完了したため、第3回目の会議は、市長との意見交換会といった形式での開催を調整したい。

以上